

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

012	日本ビクター株式会社研究所建設計画	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
大気汚染	<p>粉じんの発生する解体工事及び盛土工事による隣接住宅地への影響を軽減するため、盛土の高さを必要最小限にとどめることによる盛土用土砂の搬入量の削減を含めた工事方法の検討及び工事の時期と風向き・風速の気象条件を考慮した散水、防じん用仮囲いの設置など予定している粉じん防止対策の実施方法の検討をすること。</p>	<p>盛土の高さについて周辺地盤の高さとの取合い等を検討した結果、計画地の南側地盤の高さを当初計画より20cm下げた。これにより盛土用土砂搬入量71,000m³のうち6,000m³が削減され、土砂搬入車両台数は2,400台減となった。また、評価書案の粉じん防止対策に加えて、1) 風向及び風速によっては、散水場所、回数を増やすとともに状況によっては作業の中止または中断をするなどの対応をする、2) 東側住宅地に対する鋼板仮囲いを北側に伸ばして設置し、施工に当たっては下部等にすきまが生じないようにして防じん効果をあげる、の2つの配慮をする。</p>
騒音・振動	<p>騒音、振動の予測評価は油圧式破碎機及び杭打機についてのみ行っているが、ブルドーザー、コンクリートポンプ車などからも発生が考えられるので、効果的な防音べいの設置、建設機械の使用場所及び使用時間の配慮などの対策を検討すること。</p>	<p>防音べいについては、市道4号線沿いの住宅地に近接する敷地境界に設置する鋼板仮囲いを市道久里浜田浦線及び丘陵地側にも伸ばして設置し、また、鋼板の重なり部分や接地部分にすきまがないよう施工するので、より一層影響の軽減が図れる。</p> <p>建設機械の使用場所及び使用時間の配慮については、1) 使用場所は敷地境界からできるだけ離れた位置とする、2) 日曜、祭日は作業を行わない、3) 作業時間は8:00～18:00とする、の3つの対策をとるため騒音、振動とも評価目標を大きく下回る。</p>
植物・景観	<p>久里浜緑地の景観は、事業予定地の北側及び東側の住宅地から比較的良好に見える状況にあるが、計画の実施により住宅地からの景観に相当程度影響を及ぼす緩衝緑地の配置、構造を検討し、更に既設工場の植栽の経験を活かし、郷土樹種などによる多層林が形成されるような植栽方法を検討すること。</p>	<p>周辺住宅地からの景観を考慮した建物配置とするため、本館棟を移動し、住宅地側にできる限り広く緑地を設けるとともに実験棟の高さを50cm低くした。これにより、周辺住宅地から、建物越しに久里浜緑地のスカイラインが一部望見できるようになった。</p> <p>緩衝緑地の配置については、外周緩衝緑地の大幅な増加を図るとともに、構造については、高・中木の苗木及び低木の植栽本数を増量し、多層林を形成させる植栽構造とした。</p> <p>既設工場の経験を生かした植栽方法については、1) 植栽面はマウンド状にする、2) 植栽部分は良質な表土等で十分な客土をほどこすなどの配慮をする。</p>
安全	<p>土砂等の搬入を予定している経路の沿線には、交通のふくそうする部分もあるので、交通安全の確保に特に留意する必要があるため、土砂を搬入するルートごとの運搬台数を見直すとともに、国道134号のルートを一極力少なくし、併せて通学路の状況を考慮し、建設資機材搬入車両を含め、運行時間などの検討をすること。</p>	<p>盛土工事の見直しにより土砂運搬台数が2,400台減少したため、この分を最も交通のふくそうする国道134号のルートに振り分け、1日当たり運搬台数を減少させる。</p> <p>工用車両の運行時間については、評価書案に加えて、1) 朝の通学時間帯は、土砂搬入車両及び一般資材の搬入を避ける、2) 交通のふくそうする部分では警察署への綿密な連絡をとる、の2つの配慮をする。</p>